

# 令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日	学校	生徒数 (人)	平均正答率(%)				平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学	国語	数学
3年	学校	38	39	22	9.8	18.4		
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2		
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6		

学校	平均IRTスコア
	理科
学校	428
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

## 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日	学校	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	32	50.8	38.8	45.5	32.6	42.4	11.1	7.9	15.0	15.4	8.1
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	43	68.9	43.0	53.8	48.7	46.8	4.0	5.9	10.6	2.0	6.0
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	42	51.0	46.7	47.0	63.4	50.1	12.4	3.0	7.7	3.6	6.3
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日	学校	生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
3年	学校	31	93.2	84.9	115.3	92.6
10月22日	大阪市	—	117.4	110.2	146.2	98.4

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
2年 男子	学校	26.72	25.39	40.58	56.22	72.53	288.00	7.75	197.78	22.61	41.67
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14	425.49	8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82	409.25	8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	22.47	23.50	41.53	41.71	63.69	295.50	8.86	160.71	13.29	47.86
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12	318.64	9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60	309.66	8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 梅南中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

「話すこと・聞くこと」の領域内「スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する」問題において、全国平均の38.1%に対して39.5%と上回った。しかし、「書くこと」の領域に関しては全国平均52.8%に対して36.8%と、大幅に下回った。ここから、記述問題に課題が見受けられる。全体的には、全国平均54.3%に対して39%と、大幅に下回った。

<数学>

大阪市・大阪府の正答率と比較して、大きく下回る結果となった。特に、関数の単元の正答率が大きく下回った。基礎的な計算や方程式を解く力を必要とする、形式が予想しやすい出題を解く力は身につけてきているが、応用力が身につけていないことが顕著に表れた。

<理科>

今回から導入されたというIRTという統計理論によると、本校のIRTスコア(500を基準とする)は、「428」(全国503、大阪府487)であった。全項目について平均を下回る結果であった。理科の学力調査は、今回初めてコンピューターを使用したもので、通常のテストとは異なり小問集合のような出題形式であった。物理・化学・生物・地学の問題が混合して出題されるため、問題の流れがつかみにくく、さらに動画を見て答えるという特殊な出題形式は慣れていないと難しかったと思う。また、塩素の元素記号を答える問題の正答率が31.6%(無回答率13.2%)だったのが特に気になった。基礎の定着のための反復練習が必要である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

大阪府の平均を13.4ポイント下回った。「話すこと・聞くこと」については3.2ポイント、「書くこと」については3.1ポイント、「読むこと」については4.4ポイント下回った。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については0.9ポイントと差を詰めることが出来た。

<社会>

大阪府平均と比較して、全体的に平均を下回る結果となった。また、問題別に見たときに、筆記問題の正答率が低く、特に歴史分野の筆記問題の正答率が低いので、歴史分野の知識の定着が必要である。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、8.4ポイント下回る結果となった。昨年度は10.8ポイントを下回っていたので、2.4ポイント上昇した。「数と式」の単元、「図形」の単元は大阪府と比較してそれぞれ1.7ポイント、1.3ポイント下回ったものの、計算力や図形認識力、図形を数値化・式化する力(数量的に扱う力)は確実に身につけてきたと感じる。一方、「関数」の単元では3.9ポイント下回っており、数量関係を式で表す力(翻訳力)、変化の規則性を捉える力などを向上させる必要がある。

<理科>

成果は府平均46.0点に対して、本校は32.6点であった(対府比0.70倍)。ほぼ正規分布はしているものの、70点以上取れた生徒もおらず、中央値が26.0点ということで、全体的に振るわなかった。課題として、最近学習した3年生の範囲については正答率も比較的高かったが、1・2年生の範囲についてはほとんど定着していない。濃度を求める、振動数を求める、といった計算が必要な問題における正答率が0%だったことから、特に計算への苦手意識がうかがえる。

<英語>

平均点が大阪府平均より10ポイント下回っていたが、ポスターから読み取る問題に関しては、府平均を超えるものもあった。書くことが府平均よりも10ポイント以上下回っているため、より書く練習を進めていかなければならない。

○大阪市英語力調査(GTEC)

受験に向けて自身の英語力が把握できた。リーディングとリスニングに関しては苦手意識が強いこともあり、長い文章になった際にポイントを見つけることができず、少し諦める傾向が見えた。しかしライティングとスピーキングに関しては、自身が得ている知識を最大限に発揮し、スコアを上昇させることができた。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)

<国語>

国語科1年生において、全体として大阪府平均点を大きく下回る結果となった。特に思考力、判断力、表現力等における「書くこと」に関しては、最も得点率が低く大阪府平均と比較すると17.5ポイント下回っている。一方で、知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関しては、一部平均点を上回る設問もあり、普段の漢字学習や文法演習の成果が点数として表れることとなっていた。2年生については、対府比106%で、6.6ポイント上回る結果となった。また、すべての項目が平均よりも上回った。目立った成果としては、無回答率が昨年より2.7%減少したことがあげられる。

<社会>

1年生は市平均より低い結果となっており、特に思考・判断・表現の評価において特に低い結果となっている。  
2年生は府平均より僅かに低い結果となっているが、その要因として一部の高得点者が平均を上げている事がわかった。

<数学>

1年生については、大阪府の平均を大きく下回る結果(対府比約83%)となった。2年生については、大阪府の平均を少し下回る結果(対府比約98%)となった。どちらの学年についても、1年生は小学校の経年テストの結果、2年生は1年生のときのチャレンジテストの結果を下回っている。

<理科>

1年生は、大阪市平均正答率よりも0.4ポイント上回る結果となった。ただ、内容を見ると、「基礎」問題に関しては大阪市平均を2.1ポイント上回ったのに対して、「活用」問題に関しては7.7ポイント下回る結果となった。2年生は平均点は府平均と比較して2.0ポイント上回ってはいたが、中央値は0.5ポイント下回っていた。結果としてよくがんばっていたが、最も多かった得点群が35～39点だったため、この集団を引き上げることが重要である。全体的に計算問題に対する苦手意識が高いのは例年通りの課題である。

<英語>

1年生ではチャレンジテストにおける英語科の対府比は0.77である。基礎学力が伴っていないことが原因であると考えられる。点数の分布図に府と比べて全体的に点数が低い傾向にあることに加え、ほとんどとれない生徒が非常に多く、高得点を出す生徒が1名だけであることが課題となっている。2年生については、大阪府平均点が51.8のところ46.8で5ポイント下回った。「書くこと」については2ポイント大阪府平均点より下回った。

令和7年度 梅南中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語>

「書くこと」に関して苦手意識を持っている生徒が多いため、記述問題対策や作文の練習をさせる。また、問題を解く速度が遅いことや、無回答率の高さが目立つことから、時間を意識して問題を解く練習も取り入れていく。さらに、読解力を向上させるため、ワーク等を活用していろいろな文章問題を解かせていく。

<数学>

大阪府や私立志望校の入試問題を中心に、それ以外の様々な問題に取り組むことで、読解力や応用力を身につけさせる。

<理科>

動画を見て答えるのと、文章を読んで答えるのでは、必要とされる力が異なるため教員側も戸惑っている。今年度の3年生はこれまで毎年理科の先生が変わっているため、系統立てた指導ができていないのも定着率の低さの要因のひとつかもしれない。受験に向けて、1・2年の範囲の基礎的な内容の復習・演習に特に力を入れる必要があると感じた。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

各自の進路実現に向けて、不得意分野の克服を目指し、個々に応じた学習目標を立てて取り組ませていく。また、入試問題等を実際に時間を計って解かせて実践演習を行う予定である。

<社会>

卒業までの残りの期間で、地理分野・歴史分野の復習問題のプリントを配布し基礎的な知識の定着を目指す。基礎的な知識の定着を適宜小テストなどで確認し、ある程度基礎知識が身につけてきたら、論述力を高めるための思考・判断・表現力を身に着ける学習を進めていきたい。

<数学>

改めて各領域の基礎を向上させ、正答率を上げたい。また、入試のために発展的な問題演習も個々に応じて取り組んでいく必要がある。

<理科>

1・2年生の範囲を復習する時間を確保し、基礎の定着をはかり、受験に備える。

<英語>

聞くことが府平均と2ポイントしか変わらないので、よりこの長所を伸ばしつつ、苦手な書くことをより練習できるよう、様々な練習問題に取り組ませたい。また読むこともより練習していくために、Readingの時間を増やしていきたい。

○大阪市英語力調査(GTEC)

苦手意識のあるリーディングとリスニングを、より意識して積極的に授業内に組み込んでいきたい。その中でライティングとスピーキングに関しても伸ばしていけるよう意識した授業展開をしていく。

○中学生チャレンジテスト(1・2年生)

<国語>

1年生において、引き続き、漢字学習や文法演習を継続し、知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の得点率を上げていく。また、記述問題の無回答率の高さを解消するためにも、「書くこと」の力を向上させられるような授業での指導、問題演習も不可欠である。学年によって課題は異なるが、今後も継続して作文指導や、記述問題対策の時間を増やすことが必要不可欠である。書く力や読む力を伸ばすためにも、教科書の問題だけではなく応用問題等も解かせる時間を設ける。また無回答率も低くするべく、問題を諦めず解く姿勢もつけていかなければならない。単元テストや、漢字テスト、家庭学習の促進などをして、学力を向上させていきたい。

<社会>

1年生の課題として、学習習慣の確立が課題と考えられる。タブドリなどのタブレット教材を活用し、学習習慣を促すような授業展開をおこなう必要があると考える。2年生の課題として、学習に対する意欲は高いものの知識の定着と活用が課題としてみえる。ICTを活用して繰り返し問題を解くことによる知識の活用を促す授業展開が必要と考える。

<数学>

どちらの学年も当該学年の内容だけでなく、1年生は小学校の内容、2年生は1年生の内容から復習し基礎の定着を図っていく。また基礎の定着のためには反復して問題を解き練習を重ねていかなければならないので、授業内の学習だけでなく授業外の学習(宿題など)の促進も図っていきたい。

<理科>

チャレンジテスト特有の応用的な問題は仕方ないとしても、基礎的な知識を問う問題の正答率が低いのは残念だった。基礎の定着がもつとも難しいが、興味がわかないと勉強する気にならないと思うので、少しでもワクワクするようなことがある授業を心掛けたい。また、多くの実験や観察を行っているが、実験・観察の内容と実際のテストの問題が結びついていないため、生徒自身の点数に現れないのが課題である。実験や観察は一生懸命取り組んでくれているので、楽しかっただけで終わるようなことはないように、結果からどのようなことがわかるのかまで考えられるような授業展開にしていきたいと思う。

<英語>

1年生については、「書くこと」の指導を充実させていく。基礎的な単語力を身につけさせるために定期的に単語テストと再テストを行う。また、C-NETと協力し、自由英作などの書く活動を行うことで、生徒が意欲的に学習する機会を増やしていく。2年生では「聞くこと」「読むこと」より「書くこと」について、大阪府平均点との差が大きかった。「書くこと」の練習問題を今後増やし、授業で取り組んでいく。また、基礎基本の定着はもろろんだが、80点以上の生徒数が少ないため、さらに得点力をあげられるように問題演習も増やし、対策していく。

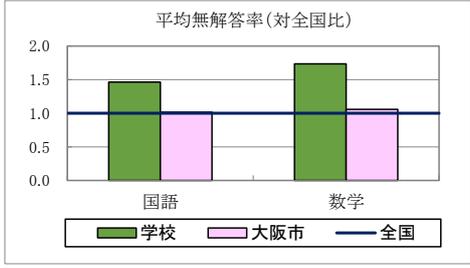
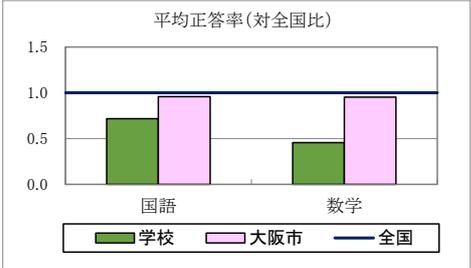
**令和7年度 梅南中学校のあゆみ**  
**—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—**

**全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より**

**【 全 体 】**

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	39	22
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	9.8	18.4
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

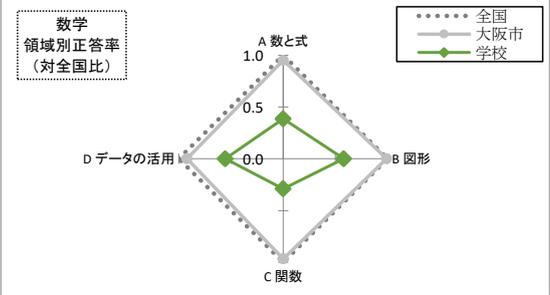
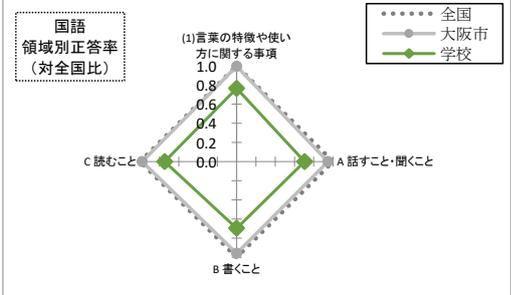
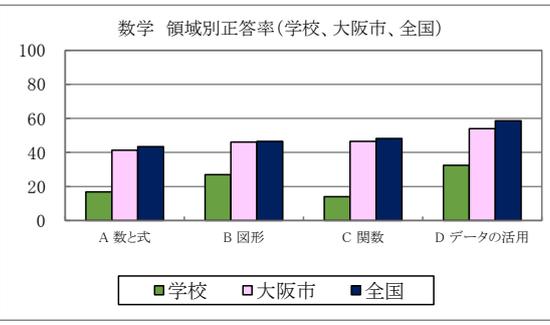
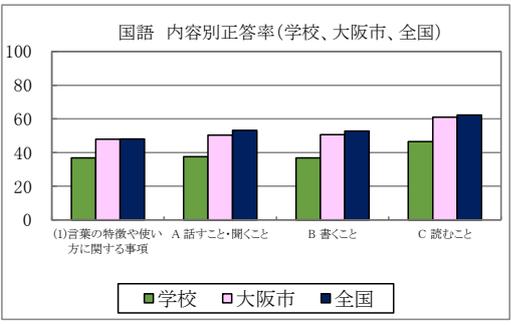


**【 国 語 】**

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	36.8	47.9	48.1
(2)情報の扱いに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	37.5	50.4	53.2
B 書くこと	5	36.8	50.6	52.8
C 読むこと	3	46.5	61.0	62.3

**【 数 学 】**

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	16.8	41.4	43.5
B 図形	4	27.0	46.1	46.5
C 関数	3	14.0	46.6	48.2
D データの活用	3	32.5	54.0	58.6

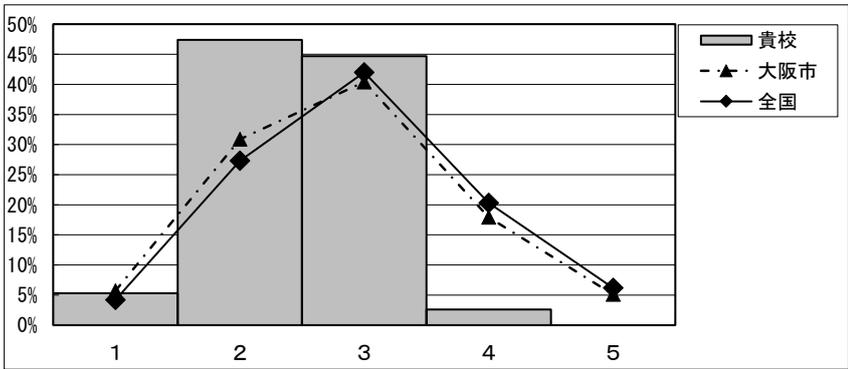
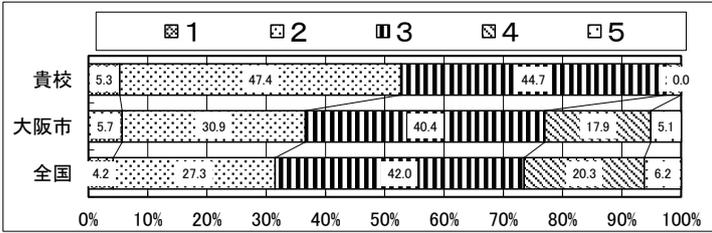


令和7年度 梅南中学校のあゆみ  
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	428
大阪市	489
全国	503



# 令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

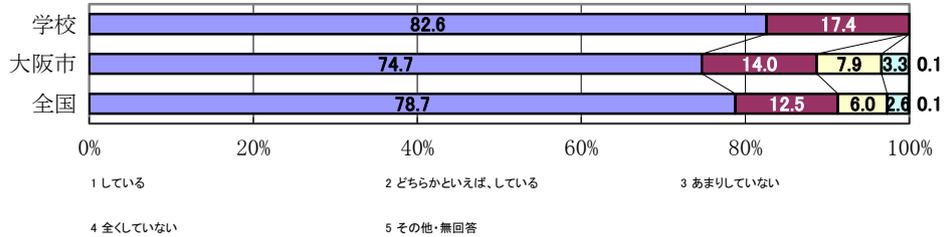
## 生徒質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号  
質問事項

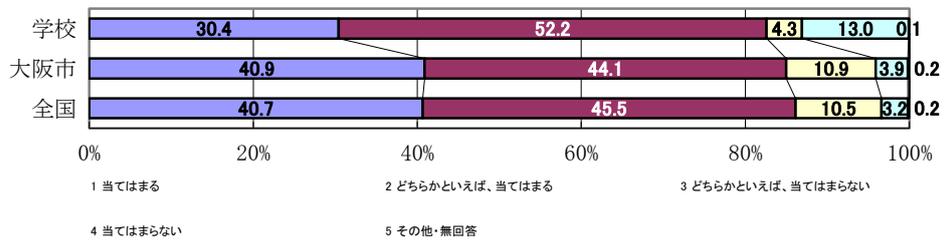
1

朝食を毎日食べていますか



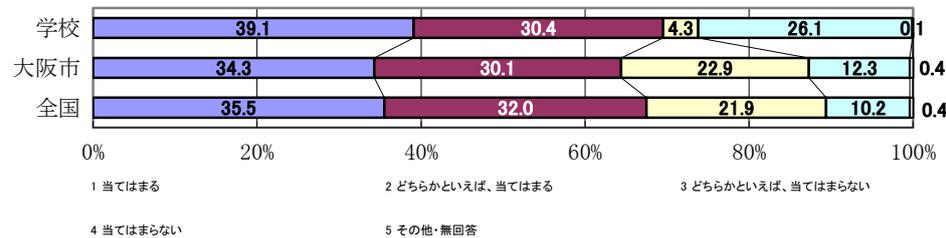
5

自分には、よいところがあると思いますか



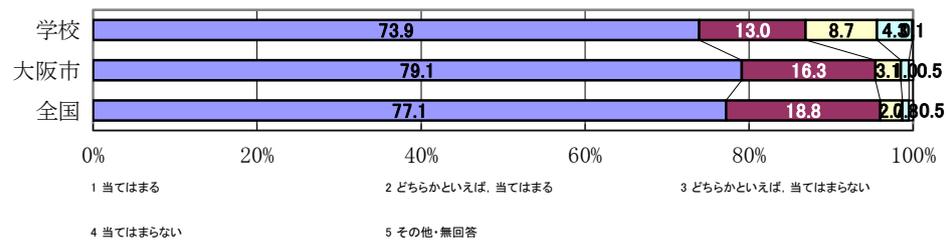
7

将来の夢や目標を持っていますか



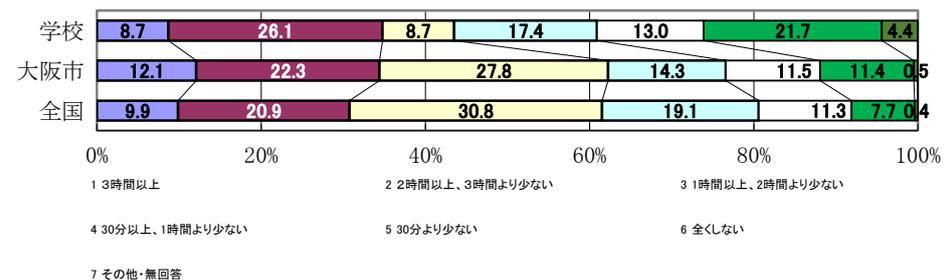
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



# 令和7年度 梅南中学校のあゆみ

## —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

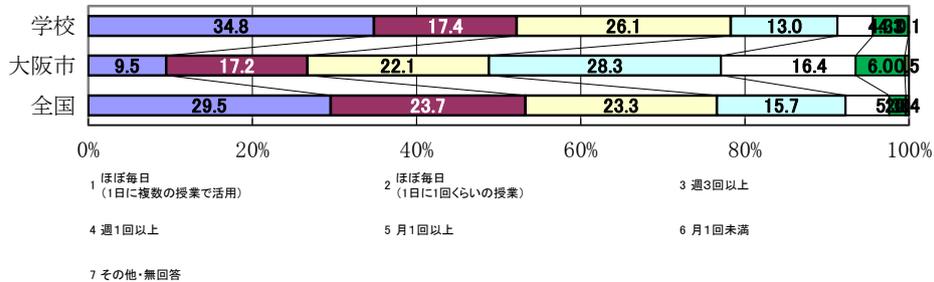
### 生徒質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8

質問番号  
質問事項

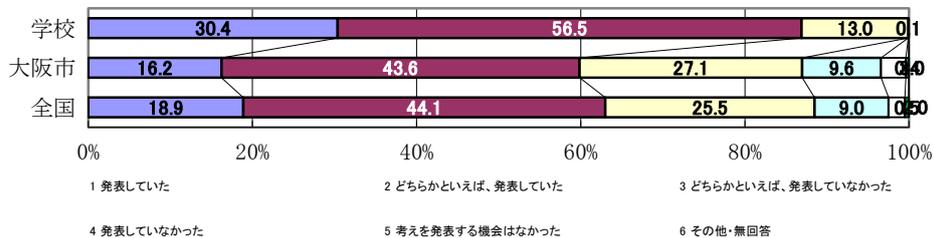
28

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



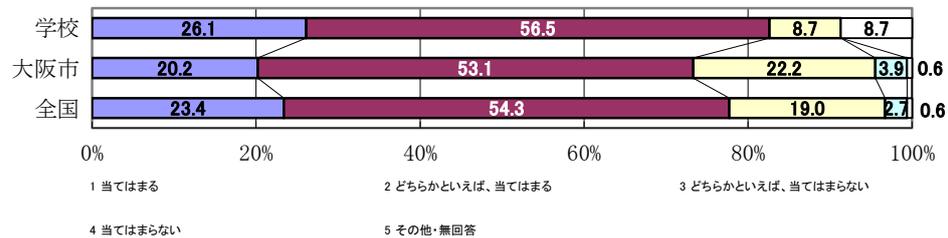
31

1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



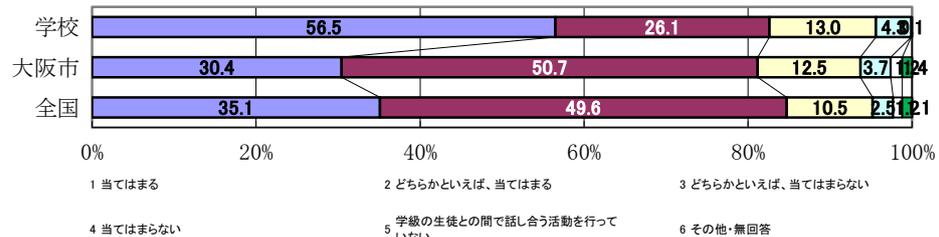
32

1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



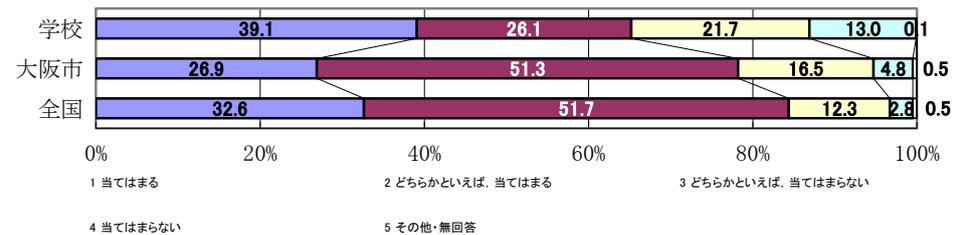
35

学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



41

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



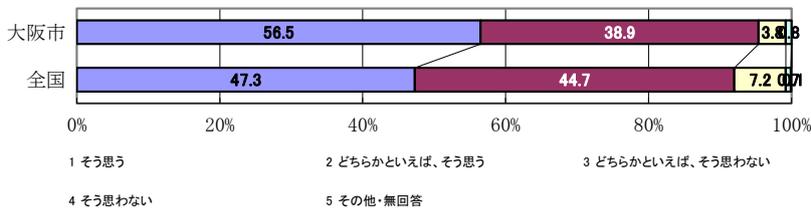
# 令和7年度 梅南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

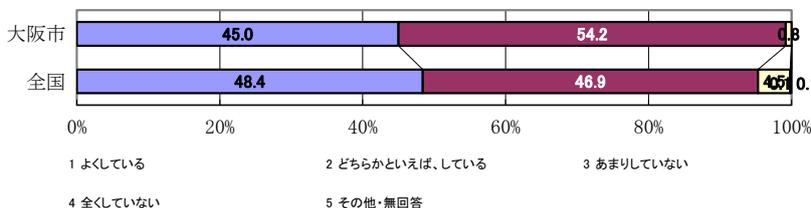
質問番号
質問事項
8
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



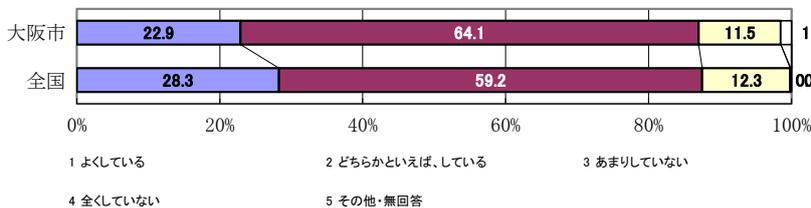
18
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



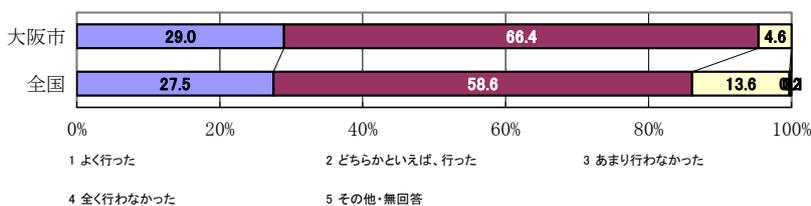
19
個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

学校 「よくしている」を選択



32
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択



58
調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に複数の授業で活用)」を選択

